

# 研究通信

No. 35

1960・6刊

村落社会研究会  
専務局

東京都文京区原町17

東洋大学  
社会学部研究室

## 「政治と農民」の

### 問題を追求しよう

福 武 直

本年の課題「政治体制と村落」をめぐる、何を報告内容の中心にしたらいいか、いかなる点を討議すべきか、ということが私にあえられたテーマであった。

しかし、五月十九日以降現在まで、私は私なりに、民主主義を守るために、一日も休まず動いてきて、ゆつくり考える余裕がもてなかつた。まとまつた問題点を提示するだけの自信は、今もなお、もちえない。

けれども、一カ月に及ぶ戦いの中で、このような理不尽な政府与党に、いささかの反省もさせることができず、強圧の積み重ねを敢て行わせた原因の一半が、農民にあるということ、このことを追求しなくては、村落社会研究会も、単なる研究会にとどまつてしまうという実感だけは、どんなに声を大にして叫んでもよいことだと思ふ。

したがって、本年の課題は、これまでに以上に実感的な意味をもた

なければならぬ。岸首相のたのみとする「声なき声」の実態をえぐり出すこと、その声をどうしたら、民主的な方向にひき出せるのかという点を探り出すこと、これに、私たちの課題は集中しなければならぬ。

そこで、まずオ一に、私たちは、このたびのような議会制民主主義の危機が、農民にどれだけ理解されているかを、調べることを提唱したいと思ふ。

オ二に、なぜ、そのように受けとられているのか、という点を明らかにしなければならぬ。同時に、この危機を理解し正しい民主的感覚をもつような芽はどこにあるかを、知らなければならぬ。

オ三に、以上の実態を支える政府与党と農民とのつながりを、町村議——県議——代議士の線と、具体的な政治の運営を通じて究めなければならぬ。地元利害への関心を多少とも満足させることによつて、農民の票が保守反動に流れてゆくメカニズムを正しく把握すべきである。

オ四に、農協などの農業団体の活動や、社会教育活動などがこのようなメカニズムと、どのようにからみあっているかを知らなければならぬ。

オ五に、革新政党が、こうした事象の中でどれほど農民に働きかけているか、それがほとんどなされていなのは何故であり、またどうして農民の中に入りこめないのかという点の解明も忘れてはならない。

このようにして、私たちは、みんなで多くの事例をもちよることによつて、村落社会の前進のための方法を、お互に究明したいと思ふ。学生や労働者のデモだけで、日本の議会制民主主義を正道にむけることはできない。保守反動の自民党をせめて反動ではない保守党にすることが、農民の民主化ときりはなせない問題なのであり、本年は、何よりもまず、この問題点に集中しようではないか。